平成 29 年度　復興庁「新しい東北」共創力で進む東北プロジェクト

第６回共創イベント（10 月 28-29 日 in 神戸）

『ダイバーシティを体現する官民一体のまちづくりスキームの構築』参加要項

共創テーマ：
「スポーツを通じて、ダイバーシティを実現するまちづくり」

ニーズ提供団体：一般社団法人マルゴト陸前高田（岩手県陸前高田市）

ニーズ内容：

陸前高田市のまちづくりは、東日本大震災により誰もが自らの特徴、置かれた状況により、その状況における活動に支障がある「社会的弱者」になりうることを学び、ダイバーシティの概念も取り入れて、年齢、性別、国籍等の多様性を認め合う社会モデルの実現をめざしている。その具体化の一歩として、スポーツの領域において、子供や高齢者、障がいのある人もない人も同じルールで実践し参加できる「障がい者スポーツ」をテーマに先進的な取組考案し、住民、自治体、NPO や、協賛する企業が一体となって取り組む連携スキームを構築したい。また、そうした事例が世界に発信され、陸前高田市とつながるファン（陸前高田市においては「りくぜんたかた思民」と呼称）を国内外に作りたい。

▼概要

東日本大震災により、陸前高田市の中心市街地は壊滅的な被害を受けました。名勝として名高い高田松原の約７万本の松も津波によってなぎ倒され、今では「奇跡の一本松」が残るのみです。しかし、震災から 6 年以上が経過する中、地元資本による大型商業施設のオープンなど具体的な復興の輪郭も見え始めており、今後は、まちづくりにとって最も重要なソフト、人への投資がますます重要となります。

今回の共創イベントは、そのソフトの方向性として、同市の掲げる人々が心豊かに自分の意志で毎日を快適に送ることができるまちづくりをめざし、具体化の一歩として「障がい者スポーツ」での先進的な取組と、それを進める官民の連携スキームを考案します。海外では、「障がい者スポーツ」とテクノロジーを融合させ、オリンピック、パラリンピックに続く新たなスポーツの祭典といわれる「サイバスロン」といった事例など、続々と新しい取組が生まれており、陸前高田市においても、アンプティサッカーのワールドカップの招致活動などが予定されています。今回の共創イベントの成果を通じて、市民の意識醸成をダイバーシティに繋げ、年を重ねて身体機能や認知機能が低下しても、障がいを持つことになったとしても安心して暮らせる社会、男女が共に協力し合い安心して妊娠、出産、子育てができる社会、困っている人がいたら助けることが当たり前で、いわゆる「ノーマライゼーション」という言葉すら意識する必要のない社会をめざします。

開催においては、陸前高田市だけではなく、多様な見地からのアイデアを募るため、同じく被災からの復興経験のある都市であり、義肢装具等、スポーツとテクノロジーの融合の分野でも先駆者が多い神戸で共創イベントを開催いたします。ご関心がある方はぜひご参加ください！

▼　日時：2017 年 10 月 28 日(土)13:30～29 日(日)15:00

▼　会場：神戸市役所 4 号館 神戸市危機管理センター（兵庫県神戸市中央区江戸町 97）

※　アクセス：三宮駅より徒歩 8 分。会場までの経路はこちら→

http://www.city.kobe.lg.jp/information/about/building/index.html）

※　会場への直接のお問い合わせはご遠慮下さい。

▼　参加定員：30 名

▼　参加対象：障がい者スポーツやまちづくりに関心のあるチーム/個人の方

※　未成年者は、保護者の同意が必要です。

▼　参加費：無料

※　神戸市内での宿泊・食費その他実費は、参加者各位にてご負担下さい。

※　宿泊先、及び宿泊先から会場までの交通手段は各自でご手配下さい。

※　参加申込：http://ptix.at/4VojS7

※　申込締切：2017 年 10 月 20 日（金）12:00

※　定員に達し次第、早期に締め切る場合がございます。

※　原則、個人での参加申込となります。IT サービスの試作が可能なエンジニア等の方はチームでの参加も可能です。

※　申込者多数の場合は事務局で選考をさせていただきます。

※　参加が決定した方には、別途事務局より当日プログラムの詳細をご連絡いたします。

※　別紙「共創力で進む東北プロジェクト・共創イベント」参加同意書を確認の上、開催当日にご提出して下さい。同意書は、当日受付にご用意してございます。

（記載内容に同意いただけない方は、参加の申し込みをお控えください。）

▼　参加メリット

・障がい者スポーツやまちづくりに関する『最先端の動向』を知ることができる。

・障がい者スポーツやまちづくりに関心のある『共通の仲間』が見つかる。

・『専門家とのリレーション』を構築できる。

・主催団体と一緒に『新しいプロジェクト』ができる可能性がある。

▼　持ち物：パソコンを持参できる方は、お持ちください。

▼　当日プログラム内容（※各関係者との協議及び参加者属性等により、変更の可能性あり）

〇10 月 28 日（1 日目）13:30-18:00

13:30- ごあいさつ・趣旨

13:40- アイスブレイク

14:00- インプットトーク　一般社団法人 マルゴト陸前高田 伊藤 雅人氏

14:30- パネルディスカッション

15:40- アイデアワーク

18:00- 終了

〇10 月 29 日（2 日目）10:00-15:00

10:00- オリエンテーション

10:15- ブラッシュアップ＆メンタリング

13:00- 成果発表会

14:00- 審査

14:30- 結果発表＆講評

15:00- 終了

※各関係者との協議及び参加者属性等により、変更の可能性があります。

▼テーマ解説

≪ノーマライゼーションという言葉のいらないまちづくり≫

陸前高田市が挑む復興は、ハード・ソフト両面から、「災害による犠牲者を二度と出すことなく、尊い命と財産を守る防災・減災のまちづくりを進めるとともに、障がいのある人もない人も、若者も高齢者も、地域で暮らす人も観光や支援で訪れる人も、誰もが快適に過ごせるまち」（平成 27 年 6 月同市アクションプランより）をつくることです。「ノーマライゼーション」や「バリアフリー」という言葉をさらに進め、地域で生活する全ての人にとって住みやすいまちとはどうあるべきかを市民一人一人が考える、多様性に寛容なまちづくりをめざします。

≪障がい者スポーツを通じた多様性理解≫

現状、成人の障がい者の週 1 回以上のスポーツ実施率は 18.2%で、成人一般の 40.4%に比べ低い状況にあります。また、2020 年東京開催を控え、パラリンピックの認知度は 98.2%ある一方で、パラリンピック以外の障がい者スポーツの直接観戦経験のある人は 4.7%に過ぎないという調査結果があります（平成 26 年 11 月 日本財団パラリンピック研究会）。しかし、「障がい者スポーツ」は、人々の特性に配慮したルール設定などから、子供や高齢者、障がいのある人もない人も同じルールで実践・参加できるという強みがあります（平成 28 年 3 月 地域における障害者スポーツ普及促進に関する有識者会議）。

マルゴト陸前高田は、交流人口拡大を使命として市内の資源を最大限活用した民泊事業等を立ち上げ、修学旅行や大学研究者合宿、企業研修の誘致を進めてきました。今般はそれらに加え、アンプティサッカー[1]のワールドカップを陸前高田に招致し、その開催を通じて、「ノーマライゼーションという言葉のいらないまちづくり」を担う市民の意識醸成に繋げることをめざしています。

≪障がい者スポーツとテクノロジーの融合≫

[1] 上肢・下肢の切断障がいを持つ人々によるサッカーで、競技用の特別な器具を必要とせず競技が可能なため、足に障がいを持つ人々が比較的気軽に楽しめるスポーツとして、国内外で急速に認知度が高まっている。

2016 年スイスで「サイバスロン」が開催されました。「サイバスロン」とは、オリンピック、パラリンピックに続く新たなスポーツの祭典で、6 つの種目（脳コンピューターインターフェイスレース、機能的電気刺激自転車レース、強化型義手レース、強化型義足レース、強化型外骨格レース、強化型車椅子レース）で競われます。出場者はパイロットとエンジニアリングスタッフのチームで構成され、そこに「障害」と「健常」の境界はないとも言われます。

テクノロジーとの融合で「障がい者スポーツ」は新たな段階に入り、そこからの学びは介護福祉や健康寿命延長等、将来的に新たな市場を切り拓く可能性を秘めています。

▼ 主催：復興庁

▼ 協力：一般社団法人マルゴト陸前高田

▼ 特定非営利活動法人　日本アンプティサッカー協会

陸前高田市役所

神戸市役所

▼ 問い合わせ先

事務局：NEC ソリューションイノベータ株式会社

担当　江本、日比　fw_tohoku2017@nes.jp.nec.com

電話　03-5569-3300

以上